

令和4年度 京都大原学院 前期学校評価（中間報告）

学校教育目標

「大原のゆとりある心を自信をもって伝えられる子に！」

◎前期学校評価を実施し、学力分析テストの結果や、体力テストのデータなどを総合し、以下の（1）～（5）の項目ごとに学校評価（中間報告）としてまとめました。11月開催の学校運営協議会での協議内容も反映しています。

（1）「確かな学力」の育成に向けて

【分析】

各種学力テストなどのデータでは実施された全学年とも平均値として、全市平均を上回り、健闘しています。小中一貫小規模校の取り組みの成果が表れていると考えられます。学校評価アンケートではおおむね、満足感をもって学習している学院生が9割近くになることがわかりました。自主的に学習を進めることができるとしている学院生が7割程度であるので、小規模校の良さを生かした学習を進めながらさらに探究心をもって、自主的な学習に取り組むことができるよう環境整備を進めていきたいと思います。

【分析を踏まえた取り組みの改善】

学校評価アンケートから、全学年、わかりやすく話しをすることに意識を持っている学院生が多いことがわかりました。これまでの学習方法の柱である、探究活動、体験活動をこれからも大切にしていきたいと考えます。各種テストの中でも、ポイントが伸びていない、国語の「話すこと」に関連する学習について焦点を当てて、学習活動の中で、表現や話合い、討論形式など、目的や場面、相手、に応じた話し方ができるように、バリエーション豊かに指導を行っていきたいと思います。

【学校運営協議会より】

ジョイントプログラム、学習確認プログラムの点数が高くなってきたことは、うれしく思います。体験活動や、探究活動など、長年積み上げてきた京都大原学院の学習活動のスタイルが定着し、成果を発揮しているように感じます。9年生の大原提言を地域も楽しみにしているので、これからも大原提言に向けた取り組みを進めていって欲しいと思います。GIGAスクール構想が進み、1人1台の端末をどう使うか、授業でどのように活用し、何を学ばせるか、さらに学習につなげて欲しいと思います。

（2）「豊かな心」の育成に向けて

【分析】

学校評価アンケート項目の、「自分がされていやなことは、他の人にしないようにしている」や「挨拶は自分からしている」などの項目が高学年になるにつれてパーセンテージが上がっていることから、本校が掲げている具体的取り組みの「他者や地域との関わりの中で、お互いの生き方や価値観の違いを認め合い、そのよさを伸ばし、規範意識を身につけていく道徳教育の充実を図る。」ことに一定成功していると考えます。また、「大原の環境（自然や景色）に関心がある」の項目の回答でも、上級生になるにつれ数値が上がっていることから、具体的取り組みの「恵まれた自然や地域の協力を積極的に取り入れ、さ

さまざまな体験活動を通して、自然・人・地域とのかかわりを大切にする心を育てる」ことについて成果を伺うことができます。

【分析を踏まえた取り組みの改善】

多くの項目で肯定的回答が80%を超えており、高い数値を示しているのでこれまでの取り組みをさらに向上させ、続けていきたいと思います。また、「大原への関心」も特に後期ブロック生の数値が高いことから、9年間の大原提言に向けた取り組みの成果であることが考えられるので、更に向上を目指しながら、継続していきたいと思います。

【学校運営協議会より】

道徳教育の充実や人権意識など子どもたちの心の育成が進んでいることは素晴らしいと思います。子どもたちの姿から、地域の大人が学ぶことも大いにないので、相互の向上を目指していきたいと思います。学校の学習活動に協力できる地域のシステム作り、例えば地域のボランティアリストを作成するなどし、子どもたちの活動につなげていくことができればよいのではないかと思います。

(3) 「健やかな体」の育成に向けて

【分析】

前期課程では、新体力テストでの前年度の結果と今年度の結果を比較したところ、男子では上体起こし、20mシャトルラン、50m走が前年の数値より上がっており、全市の平均よりも上回りました。女子では、握力が前年よりも数値が上がり、全市の平均も超えました。また、去年よりは数値が下がったものの全市の平均を上回ったのが反復横跳び、50m走、ソフトボール投げでした。低学年男女で50m走が全市平均より、若干下回りました。また、5・6年生のソフトボール投げが下回っている結果でした。6年生・9年生実施の全国調査では、「毎日朝食を食べている」「同じ時刻に寝る」「スマホの約束事ができている」の項目でできていると回答している学院生が8割を超えていたことが印象的です。

【分析を踏まえた取り組みの改善】

体力に関して、全体的な運動能力の向上を図っていきたいと思います。長座体前屈では柔軟性が求められているので、体育の授業前のストレッチや柔軟性が養われるスポーツや遊びを考えていきたいと考えます。また、ソフトボール投げ、20mシャトルランなどの向上のため、楽しみながら持久力をあげるスポーツや遊びなどを取り入れていきたいと思います。昨年度より、全市平均から下回る数値の差は少なくなっているので、さらに意識し向上をめざしたいと考えています。基本的生活習慣はほぼ身に付いているようですが、「スマホの約束事」ができているについては、100%を目指し、情報モラルの徹底に向けて、授業内で子どもたちへ働きかかるとともに、家庭にも協力をお願いしていきたいと考えています。

【学校運営協議会より】

休み時間に運動場でサッカーなど体を動かしている子どもの姿をよく見るので、体力の向上を目指し、さらによい雰囲気を作っていただきたい。大人数で遊ぶ機会が少なく、経験が少ない面があるので、学校の授業や遊びのなかで体力の向上を期待したいと思います。

(4) 学校独自の取組

【分析】

学校評価アンケートの「やってみたいことやなりたいものが思いつく」の肯定的回答は前期 B 生が 82%、中期 B 生が 66%、後期 B 生が 75%。「学校の学習が将来、社会に出たとき役に立つと思っている」は前期 B 生が 97%、中期 B 生が 85%、後期 B 生が 100%。という結果になった。

【分析を踏まえた取り組みの改善】

将来の夢やつきたい職業について考えている学院生が比較的多いのは、「大人になる科」の取組で将来について考える機会があるからと思われます。教員だけでなく地域から多くの大人が学習に関わってくださるので、多くの具体的な職業などに触れる機会があることに起因すると考えます。

【学校運営協議会より】

今年はコロナの影響もまだまだありますが、以前から取り組んでいる、地域の農園を借りての米作りや野菜作り、三千院、寂光院、宝泉院での学習や行事の取り組みを行うことができ、地域に根づいたキャリア教育が進んでいる。また、6 年生の「大原探究（職場体験）」や 8 年生の「生き方探究・チャレンジ体験」など将来の具体的な仕事について考え体験する機会は大切だと思います。

（5）いじめの防止等についての取組に向けて

【分析】

いじめに関しては、全国調査で「いじめはどんなことがあってもいけない」という項目で、6 年生、9 年生ともに「どんなことがあってもいけない」と 100%の学院生が回答していることはとてもうれしく思います。「先生はあなたのよいところを認めていますか」も 6 年生、9 年生ともに 100%でした。校内のいじめアンケートでは、若干名の学院生がいやな思いをしたことがあるという内容の記述がありました。

【分析を踏まえた取り組みの改善】

いじめアンケートの記述について、まず、担当教員より聞き取りを行っています。人間関係の悩みについての困りを感じ、どのように関係を作っていくか考えている学院生がいることが、担任の聞き取りでわかりました。関係を深める指導により、いじめを未然に防ぐことにつながります。全国調査のアンケートでも、100%の子どもたちが「いじめはどんなことがあってもしてはいけない」との項目で「当てはまる」を選択しています。大変誇らしく思います。縦割りの活動の積み上げにより、学年を越えて助け合うことで、人間関係の複雑な構築に成功していると感じます。少人数の強みをいかして、さらに子どもたちを向上させることで、引き続きいじめを見逃すことがないよう、取り組んでいきたいと思います。教員との関係についても一定、良好な関係の構築ができていると考えができるようですが、「困りごとや不安などをいつでも相談できる」と感じている学院生のパーセンテージが満足いく数値ではなかったので、さらに開かれた関係の構築を促していきたいと思います。

【学校運営協議会より】

少人数のクラスの強みをいかして、子どもたちの様子を丁寧に掌握していただいていると思います。先生だけでなく、地域も目を配って、いじめのない学校にしてほしいと思います。